

# I 気の研究と現代

東洋文化の遺産

鹿取泰衛

気の研究の現状

張 震寰

古代の智慧を現代に

顧 慎行

現代における気の研究の意義

湯浅泰雄

# II 総説

気の研究と人体科学

湯浅泰雄

# III 気の間観と自然観

気思想と歴史

高橋 進

気と身体

石田秀実

「気」の自然観

坂出祥伸

# IV 気功と医療

気功法とは何か

柴 劍宇

心身医学と気功法

池見西次郎

気功の本質は内気功にある

林 雅谷

気功医療と東洋医学

田中朱美

V 気の生理・心理的メカニズム

意識変容体験と脳波  
藤木健夫

気功と体育の心理と生理  
賈金鼎

氣とイメージ  
品川嘉也

気功の生理学的測定  
白山正人

151

152

163

178

200

VI 気の科学的測定

存在としての気と機能としての気  
〔気の物理学的研究の現状とその意味〕  
石川光男

外気の生体高分子に対する作用  
陸祖蔭

生物体に対する外気の効果  
李彩熙

225

226

239

253

気と特異機能の科学的測定  
佐々木茂美

264

VII 気功から人体科学へ

人体科学の提唱

〔人体科学は現代科学技術体系の一大部門である〕

銭学森・陳信

気功状態のシステム論的研究  
余和璋

281

282

316

VIII 気と大自然 将来の課題

生命と自然環境  
野澤重雄

321

322

編者あとがき

345

資料

355